

六甲カトリック教会 教会報

4

No. 616



真の愛と深い交わりを求めて

主任司祭 英 隆一朗, s.j.



＋主の復活おめでとうございます

今年の冬は寒く感じましたので、暖かい春はひとときわ心が和みます。私は初めて六甲教会の桜を見ることができました。コロナ感染症による活動制限がいよいよなくなります。前田枢機卿からの通達では、マスクの着用義務などほとんどの制限が撤廃されました（マスクに関しては個人の判断に委ねられました）。それに合わせ、六甲教会の典礼でも、コロナ前のやり方に戻します。4月16日（日）から9時と11時のミサを統合し、10時の1つに戻します（告解は9時30分から告解室にて）。奉納・献金・全員による歌唱なども元に戻します。なお、ミサ曲は新しい典礼に合わせた新しい曲を歌います。

この復活祭を新たな態度でともに祝いたいと思います。アフターコロナは、単に過去に戻るというよりも、十字架を経験した者として、新たな復活を生きていきましょう。十字架の面では、コロナや高齢化、他の要因で教会から足が遠のいた人が増え、また、互いの交わりの機会が減りました。ソーシャルディスタンスの習慣によって人間関係が希薄になったように感じます。

PC やスマホを使ったネットによる新たなつながりというプラス面もあったことは確かです。それでも、人と人のつながりは、対面で顔と顔を合わせ、時には飲食をともにすることによって培っていくものだ痛感しています。

実際、イエスさま自身が人びとに直接会って話しかけ、体に触れていやしのわざを行いました。さらに罪人や病人といっしょに食卓を囲んでおられます。復活したキリストは、実際に体を伴って弟子たちの前に現れ、飲食を共にされています。神自身が人間との空間的触れあいを大切にされました。

教会活動のこれからの方向性は、イエスと人びとの触れあいの恵みを活かし、互いの交わりが深まるように心がけていきたいです。

献金のお願ひばかりで申し訳ないですが、東ティモールの浦神父より寄付のお願いが来しました（この教会報に詳しく出ています）。教会の献金箱に、東ティモール献金と明記した袋に入れて献金してもらるか、郵便振替の用紙に、東ティモール献金に丸を付けて、振り込んでもらえるとありがたいです。

トルコ・シリアの被災地募金は、イエズス会の JRS 本部に送金し、被災した人びとのために使ってもらいます。教会としての募金活動は終了しますが、もしこれから募金したい方があれば、以下の銀行口座に直接、振り込みことができます。

みずほ銀行四谷支店 普通預金 3079660 宗教法人カトリックイエズス会 災害救済募金

主の復活の恵みが皆さんの上に豊かに注がれますように

2022 年度第 6 回小教区評議会議事録(要約)

日時 2023 年 3 月 5 (日) 13:00~14:10

場所 信徒会館 第 1、第 2 会議室

出席者 英主任司祭、中村神父、宗行孝之介(議長)、三垣恭子、堤 福生(両副議長)、多田純子、大上尚子(両書記)、蛭田 武(財務部、三日月会)、松平麻也(宣教・養成部)、中西裕樹(典礼部)、井川直哉(地区会)、井川伸子(社会活動部)、林 和俊(壮年会)、藤井敦子(婦人会)、吉村千里(教会学校)、本下 稔(施設管理部)、詫 洋一(広報部)(以上 17 名)

1. 英主任司祭から

1) イエズス会員 人事異動

- ・ニティン神学生→東京神学校へ
 - ・修練者 エルウィンさん(フィリピン人) 六甲教会実習滞在(4月25日~6月5日)
 - ・フォン神学生(ベトナム人) 六甲教会滞在(7月1日~'24年3月末まで)
- エルウィンさん、フォン神学生にはニティン神学生と同様、教会学校の手伝いや、コンピュータに詳しいなら、教会 SNS を手伝ってもらうなど検討。

2) 4 月から基本的に典礼をもとに戻す。東京司教区菊地大司教が 3 月中旬に制限を撤廃する考えを明らかにした。六甲教会としてはご復活のお祝の後からになる。座席に空きを作らず、10 時ミサはご聖体も複数人で配るなど考慮。聖歌は新しいミサ曲になる。

3) 教会の活動もコロナ以前の活動に戻す。コロナで教会から足が遠のいた人たちがもう一度教会とのつながりを取り戻すため、種々の集まりの機会(三日月会、地区会、壮年会など)を増やしていく。

4) ホームページを変更した。ネット発信もするようになった。

5) 「教会全体の方向性」を皆で考えたい。これからの六甲教会のあり方、歩み方を話し合い、考える場を作りたい。以前実施したアンケート調査の結果も活用する。 コロナ前とは時期も環境も異なるので現実的に考えていく。

2. 報告事項

1) 施設管理部(本下)

進行中のベルタワー改修は機械部品納入時期が遅れる。ご復活の時には鳴らすが、取付は 4 月中旬に終わる予定。工事費用は予算内(500 万円未満)におさまった。(塗装、補修等も含む)
ベルの鳴ら方、リズムについて、主任司祭、典礼部(音楽チームオルガン奏者など)、業者とともに検討し、プログラムする必要あり。(お告げ、ミサの始まり、結婚式、葬儀などのバリエーションがある。)

2) ニティンさんへのお礼 アマゾン商品券 3 月 26 日に渡す。(宗行)

3) 10 時ミサでの駐車場の混雑対策(宗行、蛭田)

教会事務から、駐車許可証が必要であることを案内する。

①駐車許可証を車の前面に表示。教会事務所には車利用を報告。

②教会駐車場が満車の場合、ザビエルハウス駐車場も使う。

4) 婦人会・地区会(藤井)

ご復活のお祝い(4月9日11時ミサ後)は茶話会形式で行う予定。参加人数 100 人~120 人として調整。

3. 協議事項

1) 平和旬間について(松平)

4 月の部会でプロジェクトチームを立ち上げ話し合う予定。カトリック神父、プロテスタント牧師、仏教者にも参加してもらい、それぞれの話と祈りの会にしたい。

2) 小教区評議会研修会(仮称)

開催日、2023 年 4 月 29 日(土曜日) 14~17 時

参加対象範囲は、2022~2023 年度評議員とする。大テーマ「これからの六甲教会をどうするか」

・前回の話し合い「10 年後の六甲教会」の結果を参考にしながら、広汎な諸問題について総合的に討議する。

- 課題**・信者全体を六甲教会の基本方針の実行に巻き込むこと。
- ・常に問題提起をして、立ち消えにならないようにする。
 - ・常に反省を繰り返し次のステップにつなげること。
 - ・高齢化、人手不足、行事のあり方など考え直しが必要な点はさまざま。
 - ・コロナで地区会の活動ができていない。→独自の集まりの促し。講演会、お茶会など積極的に活動すること。
- 以上

●小教区評議会研修会（仮称）開催日 2023年4月29日（土曜日）14～17時

●2023年度第1回小教区評議会 2023年5月7日（日）11時半より

2023年度小教区評議会 役員・評議員

主 宰	主任司祭		
議 長	宗行孝之介		
副議長	堤 福生、松井 理直		
書 記	多田 純子、中村 節子		
評 議 員			
信 徒 会（各会会長など）		専 門 部 会（コーディネーター）	
三日月会	蛭田 武	典 礼 部	中西 裕樹
壮 年 会	小田 琢也	宣 教 部	松平 麻也
婦 人 会	藤井 敦子	養 成 部	松平 麻也
青 年 会	小阪 智之	社会活動部	井川 伸子
中高生会	川畑亜弥音	広 報 部	大上 尚子
教会学校	吉村 祐基	施設管理部	林 剛
地 区 会	井川 直哉（役員代表）	財 務 部	蛭田 武

地区役員

		地区長/ブロック長	副地区長	副地区長
7 地区	灘北 1	中村 節子	長島 久子	福島 きよ子
	灘北 2	千原 裕	藤井 敦子	斎藤 節子
	灘南	三垣 恭子	安田 茂	國賀 めぐみ
	灘西・中央	王子 麗花	中野 公子	石 万里子
	東灘北 1	橋岡 尚美	林 良一	塩飽 博美
	東灘北 2・芦屋	井川 直哉	高木 昌要	増田 瑠美
	東灘南	林 和俊	林 聖子	林 久仁子
3 ブロック	神戸西	田中 雅子		
	北・三田	梅田 知子		
	阪神	野村 友佳		

・教会報 2 月号でお知らせしていた、浦 善孝神父(イエズス会)から手紙が届きました。以下に紹介します。

引き続き、東ティモール・聖イグナチオ学院の生徒に奨学金のご寄付をお願いします Escola Jesuita, Colégio de Santo Inácio de Loiola, Timor-Leste

聖イグナチオ学院基金

現地世話人 イエズス会 浦 善孝

これまで本校の歩みにご理解とご協力をしてくださった六甲教会の皆様感謝し、お礼申し上げます。

2023 年 1 月、聖イグナチオ学院に 11 期生の新中学 1 年生が入学してきました。現在聖イグナチオ学院には高校 3 年生まで約 830 名の男子女子生徒が在学しています。そのうち 2018 年より 2022 年まで毎年 30 名ないし 31 名の生徒は、カトリック六甲教会様より奨学金を支給していただき聖イグナチオ学院で学ぶことができました。

学費とは別に、奨学生たちは通学カバンや靴を買うための費用(100 米ドル)も頂いています。高校 3 年生は卒業式に着る洋服代(150 米ドル)もいただきました

(通貨は米ドル)。合わせて貴教会社会活動部様からも、10 年間にわたって文房具のご寄付を頂いています。

本校は私立学校なので学費が必要ですが、当初から「学びたいすべての子どもたちが、貧富の隔たり無く共に学ぶことができる、きちんとした学校」(SDGs 4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保する」)の東ティモールにおけるパイロット・スクールになることを目標としてきました。そのために貧しい家庭からの子どもたちの本校への就学支援を積極的に行い、その多くは日本の皆様からの「聖イグナチオ学院基金」宛のご寄付で賄われて参りました。これまで 161 名に奨学金を支給し、2022 年度は 101 名(全校生の 12%)が奨学金を受給して無償で就学することができました。

東ティモールは 1974 年にインドネシアに占領された後、2002 年に独立した人口 130 万人の南洋の小国です。独立戦争に際しては約 20 万人が死亡・行方不明になりました。私は 2012 年にイエズス会日本管区から荒廃した東ティモールの復興に寄与するために教育プロジェクトで働くように派遣され、校舎建設時から携わり現在に至っています。皆様からの寛大なご協力を賜れますようお願い申し上げます。



ブラザー・メルシュさんの机も活躍中



学校所在地の村から通う奨学生たち



日曜日は、チャペルへミサにでかけます

六甲教会様から頂いた奨学金のご寄付

年度	ご寄付の金額	奨学生の人数
2018 年	¥1,860,000-	31 名
2019 年	¥1,500,000-	30 名
2020 年	¥1,395,000-	31 名
2021 年	¥1,457,000-	31 名
2022 年	¥1,410,000-	30 名

2021 年度には 200,000 円を洪水・コロナのために別途受領

聖イグナチオ学院の学費(1 年分) 2022 年度

学年	学費(授業料+制服諸経費等)
中学 1 年	US\$344.00
中学 2 年	US\$310.00
中学 3 年	US\$340.00
高校 1 年	US\$384.00
高校 2 年	US\$345.00
高校 3 年	US\$420.00

ブログ < 東ティモール ワニ通信 > で、聖イグナチオ学院や奨学生たちの様子をご覧ください

《 洗礼志願式 》 3 月 5 日

四旬節第 2 主日の3月5日、11 時のごミサのなかで、洗礼志願式が行われました。成人 15 名と子ども 1 名です。

このあと、洗礼式は、成人は復活徹夜祭(4月8日)に、また、子どもは復活節第 2 主日(4月16日)の初聖体に合わせて行われます。



《 3 月度三日月会例会 》 3 月 21 日

3 月 21 日(祝)10 時からコロナで休んでいた三日月会例会を再開しました。

参加者は 40 名でしたが、中村神父様司式のミサの後、今月末に六甲教会を去られる、ニティン神学生のお話がありました。

最初にインドの言葉の種類の多さや食事・衣服文化、家族についてなどの話があり、その後自分が神父になる経緯について話されました。神父になる動機は、アフリカに行きたかったからだそうです。神父になってもその願いが叶えられるとは限らないことを知り、次に医者を目指しました。しかし医者の中にも悪い人が居ると聞いて断念したそうです。その後再び神父になることを決心し、インドで神学を勉強した後、フランスパリでも学び、2020 年 11 月に来日しました。まず東京で日本語を習い、去年の夏に六甲教会に来てからは、6 か月間という短い期間でしたが、六甲教会のホームページを刷新したり、中・高校生会や教会学校の子供たちとも関わり、英神父様の目指す若い教会づくりにも貢献されました。やっと中高生会も動き始めたところなので、3 月末で去られるのは残念です。

参加者たちは約 1 時間のニティン神学生の話に聞き入り、話が終わった後にいくつかの質問もあり、時には笑いのこぼれる和やかな例会となりました。

コロナも収束しつつある中、新年度の三日月会例会はいろいろな企画を行い、参加者同士の親睦を深めるとともに、少しでも教会に貢献できるよう頑張りたいと思っています。

本日参加されなかった方々も、今後の例会には是非ご参加いただきますようお願い致します。

(三日月会会長 蛭田 武)



ミ サ



ニティン神学生のお話を聞く参加者

《 祈りと音楽の集い 》 コラールで綴る主の受難 (3 月 19 日)

四旬節第 4 主日はグレゴリオ聖歌では Laetare Jerusalem「喜べ、エルザレムよ」という入祭唱から始まる主日。四旬節中はカトリック教会では器楽の独奏を基本的にはしません。ですが、四旬節の中で復活の喜びを少し先取りするということで、この第 4 主日だけは器楽独奏も許されています。

そこで、第 1 部ではドイツのプロテスタント教会で受難節の各主日に歌われるコラール(讃美歌)を教会暦の順に取り上げました。それぞれの讃美歌独唱とそれに基づいて作曲された



バッハを中心とする作曲家のコラール前奏曲によって、主の受難を瞑想していく時間を過ごすことができたと考えました。そして、第 2 部はその瞑想から私たちの祈りを神様に捧げる時間をゆっくりと持ちたいと思いました。当教会の 6 人のオルガン奉仕者と香里教会の谷崎加奈さん(歌)が演奏しました。教会壁面の十字架の道行彫刻、神学生ニティンさんの絵を交えて、皆様とご一緒に四旬節にふさわしい良い黙想の時間を過ごすことができたと思っています。(三浦優子)



音楽チームの活動を紹介します！

音楽チームは典礼部に所属しており、音楽関係奉仕者、典礼部員など 10 名で運営しています。

ミサの音楽担当当番表作成、聖歌選定、オルガン・独唱奉仕者の勉強会、また、オルガンのメンテナンスや使用管理なども行っています。

「聖歌隊」はミサだけではなく、葬儀、結婚式などでも奉仕しており、練習は月に 2 度ほどです。今回のミサ式文の改訂では、新しいミサ曲と式次第の会衆用楽譜を印刷し、聖歌隊メンバーを中心に皆さんで歌えるように練習をしています。

「祈りと音楽の集い」はクリスマスを含め年 4 回開催しています。このコンサートには、六甲教会所属信徒以外のお客様の参加も増え、今では宣教の場にもなっていると思っています。フェイスブックページでは祈りと音楽の集いの録画も含めて、いろいろな活動を発信しています。

コロナ禍では、ミサに与ることができなくなった信徒の方々に聴いていただきたと思い、聖歌録音を始めました。録音は順次“音楽チームの YouTube チャンネル”にアップされ、2023 年 3 月現在で 117 曲になりました。現在は主日ミサの拝領の際に流しています。

3 年近くの間、聖歌は会衆代表として独唱者が歌っていましたが、最近になって、答唱詩編から少しずつ皆さんと一緒に歌い始めました。復活節第 2 主日のミサから、新しいミサ曲を含め、全曲を会衆全員で歌う元の形に戻ります。聖歌隊が 10 時ミサ前 9 時より当日の聖歌練習をしています。どうぞお気軽にご参加下さい。

ご一緒に歌いましょう。(音楽チーム長 三浦優子)



Facebook(祈りと音楽の集い)



YouTube(六甲カトリック教会音楽チーム)

社会活動部ボランティアグループ紹介（５） コンゴの子供の教育基金

私達の活動の始まりは、2011 年に コンゴで活動されていた日本人のマリアの宣教師フランシスコ修道院のシスターが一時帰国されてお話を伺ったところからです。

シスターは 30 年以上、コンゴのルブンバシで看護師として活動されていました。その活動の中でカスバレッサと言う街に、シングルマザーの為に貧しくて教育を受けさせることが出来ない子供達がいいて、教育を受けなければ安定した収入を得る仕事に就けない事、そして次の世代も貧困の繰り返しである事。そのような子供達に援助をしていると話されました。

私達は、1 人でも多くの子供達が学校に通えればと思い、教育基金を集めるために社会活動部でふれあい広場、チャリティーバザーで資金を集め、同窓生の献金を合わせて修道院を通して送金してきました。当初は、6 年の約束でしたが、2011 年から現在に至ります。その間、小学生、中学生、専門学校生と、多くの子供達を支援しました。そして、援助を受ける子供達は、修道院でお手伝いをしていると聞いています。

諸事情がありバザーへの参加は、去年のチャリティーバザーで終わりました。今後は、有志からの献金で支援を続けます。今まで協力して下さいました教会内外の皆様に感謝します。

イメルダ 竹内真理子

《 3 月の炊き出し 》 英神父さま、炊き出しに参加

毎月、第 2 土曜日は、六甲教会が、カトリック社会活動神戸センター主催の炊き出しをする当番日です。3 月は、英神父さまも一緒に参加して下さいました。神戸での炊き出しは初めてだそうです。ジャガイモの皮を剥いたり、鶏肉を切ったり、カレーのルーが溶けやすいように細かく切ったり、いろいろと手伝って下さいました。楽しくおしゃべりしながらみんなで和気あいの作業。

小野浜グラウンドで、丼にご飯を盛り、カレーをかけておじさんたちに配食。お天気がよかったせいかいつもより多く、100 人近くのおじさんたちが集まって来ました。神父さまは、これからも時々参加されるかもしれないとのこと。みなさんも一度、炊き出しを体験してみませんか？ この日は、教会学校の子どもと親御さんも参加され、作るのを手伝って下さいました。 井川 伸子 （社会活動部）



《 信愛学園に卒園お祝いケーキ 》 ともしび会



3 月 16 日（木）は児童養護施設 信愛学園の卒園式でした。六甲教会ボランティアグループのともしび会（教会報 2 月号参照）では、卒園する子どもたちにお祝いのケーキを作り持って行きました。キルシュトルテですが、さくらんぼの代わりに子どもが好きな苺をのせました。子どもたちの嬉しそうな顔が目につかびます。

今月の聖人 イグナチオ・デ・ロヨラの誓願と聖母マリア

1541 年 4 月 22 日、イグナチオとその仲間たちが誓願をたてました。前年の9月に教皇によって認可されたイエズス会はイグナチオを総長として推挙しましたが辞退していたのを、この誓願のときに受け入れました。イグナチオは回心の出発点をその 20 年前の 1521 年 8 月に、聖母マリアの出現を感じたときと語っています。以来、聖母マリアはイグナチオにたびたび現れ、聖母のたえざる導きをその活動の原動力としていました。第二バチカン公会議までは、この日をイエズス会の「元后」記念日としていたほど聖母マリアとイエズス会の絆は深いと言えます。そして聖母マリアはカトリックの根源の象徴として存在します。



日本へのイエズス会による布教はやや強引なところもありましたが、いっぽう聖母マリアに象徴される母性といつくしみの心や、イグナチオの唱えた、自己を徹底的に見つめ、内省する姿勢は共感を呼び、彼らの説く「ハライソ」は当時の人々にとって魅力的で、長崎の百姓、漁民から一部の武士、大名に至るまで浸透していきました。キリスト教の及ぼしたわが国への影響は、歴史的にみても文化的にみても大きなものがあります。マリア観音などの独特の信仰を生み、聖母マリアは日本人のどこかに優しく定着したと言えます。

ロヨラの思想の根幹は「霊操」で、わたしたちが常に行う「黙想会」が一番わかりやすいその一環ではないかと、私は理解しています。内心を見つめ、信仰を究め、全身を「無」にしてひたすらイエスに近づく。それは同時に「外へ向かっていく教会」へのエネルギーになります。なお、蛇足ですがロヨラというのは彼の居住地の名前で、本来の彼の呼称「イグナチオ デ ロヨラ」は「ロヨラ城のイグナチオ」ということになります。（詫 洋一 記）

私の好きな聖書の言葉

大仲 玄明



「家造りの捨てた石が、隅の親石となった。これは神のわざ、人の目には不思議なこと。」 詩篇 118：22-23

神様のなさることは人智を超えたもの。沢山のいつくしみ、喜びにあふれ、時に苦難もあれば試練もあります。その中で、さまざまな形でいつも絶えず見守って下さっていることを、このみ言葉は教えてくれているように思います。「石」の解釈はいくつかあるようですが、毎日の生活の中で、なにも「奇跡」を期待するのではなく、ただ信じること。いつか、そうであったと神のみわざに気づく時がきます。通り一遍の解釈かもしれませんが、私はいつもそのように感じています。

社会活動部 今月の予定

- 4 月 5 日（水）10:00～ 手芸の集い（第 1、第 2 会議室）
- 4 月 8 日（土）10:00～ 炊き出し（中央教会内活動センター台所）メニュー カレー
- 4 月 14 日（金）11:00～ 社会活動部 2023 年度第 1 回連絡会（第 4 会議室）
- 4 月 28 日（金）9:30 ～ ともしび会（教会台所）児童養護施設の子どもたちへのケーキ作り

私の夫はこよなく犬を愛する人だった。今流行の小型犬ではなく大きな犬が好きだった。

さかのぼること十年前、知人が家で面倒をみられなくなったというハスキー犬を貰ってきた。子犬と言えど柴犬の親ほどの、片方ずつ目の色が違い、しかも吊り上がっているこわもての犬は「どうだ、可愛いだろう」と夫に言われても、お世辞にも可愛い犬とは思えなかった。「マヤ」と命名し、毎日ほぼ洗面器いっぱいのエサを食べ、やがてマヤはメキメキ大きくなった。雪原をソリを引いて走るイメージのシベリアンハスキー犬はなるほど力が強く、私が大事にしている植木鉢を、尻尾一振りで行くつ割られたことか。そんな犬を飼うにあたり、夫に約束してもらったのが、絶対に犬より早く死なないで、という事だった。それ以来、冬の寒さにも、夏の暑さにもめげず、マヤとの散歩は昨年夏まで続き、マヤは夫の一の「子分」であった。



最初の頃は散歩のコースは人家が途絶える山中まで登り自由に遊ばせていたが、あるときバツタリ猪と遭遇し、その鋭いキバで横っ腹をグサッとやられ「えらいこっちゃ」と抱きかかえて戻ってきた。かかりつけの獣医さんに飛び込み、二時間に及ぶ手術を要した。

それ以来、散歩のコースはもっぱら人里へと変り、教会の辺りまで行くと夫は「今日も神父様にお会いしたよ」と。藤棚の下でタバコを吸われていたアルフレド神父様によくお会いしたようだ。「教会の前を通ると、マヤは自分でスッと中に入っていくのだ。いつも前を素通りする若者たちがマヤのように、教会に入っていくといいのになあ。」と夫はよく言っていた。



そういう本人も、ブラジルで仕事をしていたころ、目の前の教会には足を踏み入れたことなく、ちょうどその向かいにあった生ビールのショップには、現地の部下を連れ「彼らとのコミュニケーションが大事なんだ」とよく飲みに行き、部下たちが「エライコッチャ」などと夫の大阪弁を口まねで話すようになっていたほどであった。

そんな夫がオマリー神父に出会って、ザビエルハウスでのバイブルクラスに寄せていただくようになり、当時神父の属しておられた中央教会で受洗するに至ったのは、いまは亡き神父のお導きと、あの時のお仲間たちのお力にほかならないと感謝は尽きない。病を得て抗がん剤治療の傍らも調子が良いとマヤとの散歩を続けていたので、見守りと称して私もフーフー言いながら後からついて歩いた。コロナ禍で人気の少なくなった大学のキャンパスなどあちこち休憩しながら一緒に歩いたが、今となってはなぜもっとついて行かなかったのかと悔やまれる。夫の最期の近いころ、見舞ってくれた孫に、今一番何がしたいかと尋ねられ「マヤと散歩や」と即答するほど夫とマヤは息の合ったコンビだった。

あるじを失くして、連日あまりにも元氣なくしょんぼりしている様子のマヤなので、大好きな散歩に連れ出すしかなく、私がリードを握ると「こっちだよ」と道案内してくれ、「じいじは何処にいるのかしらね」と語り合いながら歩いている。戻って遺影に向かって散歩を報告すると、心なしか写真の顔が嬉し気にしているようだった。

“いつくしみ”

2022年11月27日（日）より典礼に変更があった。変更のひとつに「あわれみ」の言葉が「いつくしみ」に変更された。「あわれみ」は神と私たちとの距離を感じるが「いつくしみ」は神と私たちが一体化し救済される感じがする。

「いつくしみ」という言葉を聞いて、私の頭をよぎる人がいる。石牟礼道子である。彼女は水俣病患者を「あなたと私の二元化」ではなく「あなたと私の一元化」で救い上げ救済した。彼女は「いつくしみの目・心」で救済した。彼女の救済とは自我を越え人の存在を根こそぎ救い上げ、魂を救ったことにある。

彼女が「いつくしみの目・心」を持つことができたのは生い立ちにあると思われる。天草・水俣の自然に根差した生活、盲人で心の病んだ祖母の存在、少女期の家の没落を通して人と人との命の触れあい、学歴財産などによらぬ人間としての魂の平等を体得し、そこには区別も差別もないことを学び、社会を批判する力も得た。感性を磨き生きたことが「いつくしみ」の心を育んだと思われる。地域の歴史（口伝／隠れキリシタンの語り部）、文化も彼女の魂の感性を深く育んだ。惨苦を生きる人にこそ聖なるものが宿すと感じる。「物が豊かになれば幸せになる」という近代文明の過ちを示した。現代は人間の内に宿った魂の宝が急速に失われつつある。「いつくしみ」の心で他者と向き合い相手を尊重することができるならば生きやすい世になるのではないか。（山本順子）

お知らせ

★3年ぶりに「ご復活お祝い会」開催

4月9日（日曜日）11時ミサ後、「ご復活お祝い会」を開催いたします。

茶話会形式（ソフトドリンク、ケーキ、クッキー、サンドイッチ等）です。

復活徹夜ミサで受洗された方をご紹介します。

皆さまのご参加をお待ちしております。当日午前中にイグナチオホール台所までケーキ、クッキー等の寄贈をお願いいたします。 地区会

★初聖体お祝いパーティー寄付のお願い

4月16日（いつくしみの主日）10時ミサの中で8人の子どもの初聖体式が執り行われます。その内4人は洗礼式に与っての初聖体です。未来の教会を担う子どもたちの洗礼・初聖体は大きな喜びです。皆さんでその喜びを分かち合っていただけたらと思います。ミサ後に簡単ではありますが、イグナチオホールでお祝いのパーティーを行います。つきましては、リーダー室前（信徒会館2階司祭室前）に箱を用意していますので、9日までにお菓子やジュース類の寄付をお願いできれば幸いです。また式当日のミサ前に焼き菓子など手作りのお菓子も大歓迎です。よろしくお願いいたします。 教会学校リーダー 吉村 千里

★春の墓参

3月25日、14時の納骨式では23柱が収められ、その後、英・中村両司祭による各墓の祝別、15時半からの共同墓参の祈りには15名ほどが参加して死者への祈りが捧げられました。（墓地委員会）

六甲春秋 春のうららの隅田川

この間の新聞で、一つの記事に目が留まった。最近、日本を脱出して海外に住み着く人が増えたというのだ。事の真偽を確かめるスベを持たないが、どうも信じられない。というのも私は8年間を外国に住み、また様々の国を訪れた体験から見て、日本以上に四季折々の風景があり、各地域の祝祭があり、安全で快適な国は他にないのではというのが実感である。日本を出国してから数年後に後悔して戻ってくるのではと、私はカンぐっている。

満開の桜を眺め、たえず気を散らしながらもパソコンに向かい教会報の原稿を書いている。サクラの花に大風が吹かないようにと、雨が降らないようにと願いながら。今日の薄ら陽の中を蜂は蜜を求めて飛びかい、小鳥たちは毛虫を食べるために訪れ、にぎやかな忙しい季節になったものだ。しかし少しも目が離せないのは、大阪場所の大相撲である。時にはサッカーや野球を観ることがあるが、何と言っても相撲は別格である。ぬるま湯につかったような微温的な毎日だが、相撲の観戦を時間が許す限り楽しんでいる。いつもテレビ観戦ではあるが、居ずまいを正し真剣そのもので。今場所は横綱も大関も不在ではあるが、それだけに伸び盛りの若手がひしめき合って連日シノギを削っている。気になるのはNHKのアナウンサーの言葉である。知識ばかりで、相撲なるものを自ら取ったことのない者が、偉そうに各力士の心理や作戦や資質を語るのには頂けない。その意味では、部外者である「横綱審議会」なるものが大きな権限をふるう事には反対である。

金儲けには無縁の修練や修行や求道の道は他に数多くあるが、相撲ほどに過酷で険しい生き方はない。まったく特殊な古い社会形

態を今日も存続させ、日本の各地から時には外国からも若者が参集し、プライバシーのない団体生活の中で厳しい鍛錬に明け暮れ、「勝つこと・強くなること」を至上命令にしている。序列はあるが、それは年齢でも経験でも縁故でもなく、ただ場所ごとの白星の数である。勝負は一瞬の立合いで決する時、あるいは数分の激しい攻防を経る時などさまざまではあるが、力士の日頃の錬磨や心の持ちようが露わになる。

勝ち星をあげるためには心技体のすべてが整い鍛えられる事が求められるが、各人の性格や苦手意識や怪我の有無も歴然とあり、また勝利の女神が微笑みかける時の巡り合わせも大きい。しかし過去の対戦成績も相手の心理状態も大いに参考にはなるが、それがすべてではない。験かつぎも、その人ならではの決まった所作も、人知では図り難い勝敗の行方を左右すると信じるからなのだろう。気負っても臆しても駄目であり、無心の境地になって裸でぶつかり合いながら、相手の力や狙いを瞬時に読み取り機敏に対応してゆく必要があるという。しかし最後的には勝敗の行方は誰にも分からず、一切の予想も確言もできず、まさに相撲は取ってみなければ分からない番狂わせを秘めている。人生の縮図といえそうだ。「わが心のくずおれる時、地の果てからあなたに呼ばわれます。私を導いて及び難いほどの高い岩に上らせてください。」



中村健三 合掌

【2023 年 4 月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
受難の主日 (枝の主日) 手話通訳つき				聖木曜日 主の晩餐 洗足式	聖金曜日 主の受難 ◎東灘南	聖土曜日 復活徹夜祭 洗礼式
9	10	11	12	13	14	15
復活の主日					◎東灘北 2・ 芦屋	教会学校入学 式・始業式
16	17	18	19	20	21	22
復活節第2主日 初聖体・祝福式					◎大阪シナピ ス定期清掃	
23/30	24	25	26	27	28	29
復活節 第3/4主日		聖マルコ 福音記者			◎東灘北 1	◎土曜班

◎は掃除当番地区

- ・4月2日のイグナチオ喫茶はお休みですが、聞こえない信徒さんとの交流会はありますので、どなたでもご参加ください。
- ・復活節第2主日より、主日のごミサは土曜日 18:00、日曜日 7:30、10:00 の3回になります。

【編集後記】

- ・新年度より広報部コーディネーターを詫洋一さんから引き継ぎました。英主任司祭の“教会若返り方針”の一環です。詫さんは引退ではありませんので、引き続き企画や編集・制作の面でお世話になります。
- ・教会の広報活動は、SNS チームやオープンスペースチームの始動により、従来から大きく広がりました。若いスタッフの皆さんのスピード感を大切にして、教会内外への発信がうまく図られるよう、尽力します。また一番大切な、祈りの共同体のための誌面作りを心がけますので、よろしくご指導ください。(大上)

・次回5月号の発行は4月29日(土)です。 皆さまからのご寄稿をお待ちしています。 原稿は毎月15日ごろまでに、FAX、メール (renraku@rokko-catholic.jp)にてお送り下さい。 手書きもお受けします。(広報部) ・教会 SNS チームは、フェイスブック、インスタグラム、ツイッター、YouTube チャンネルで配信しています。「六甲カトリック教会」で検索してみてください。	六甲カトリック教会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電話 078-851-2846 FAX 078-851-9023 http://www.rokko-catholic.jp 発行責任者 英 隆一朗 編 集 広 報 部
---	--